第36号 ながえの里だより（2019年夏号）令和1年7月10日発刊 医療法人ながえ会広報新聞委員会 庄原市川北町890-1 0824(72)7300

【写真】岡山県真庭市 普門寺 /写真提供：写真同好会

日本医療機能評価機構 認定病院
庄原同仁病院
庄原同仁病院介護医療院
広報誌 第36号
発行 庄原同仁病院広報新聞委員会
〒727-0203 庄原市川北町890-1
Tel:0824-72-7300 Fax:0824-72-7333
e-mail doujin@sweet.ocn.ne.jp
URL http://nagaekai.com/

虐待に想う

院長 村尾 文規

許し乞う天使のごとき幼子の父はジキルとハイドのごと

小欄に躾と称する虐待で逝った幼子のことを取り上げたが、その後、毎月のように幼子の虐待死のことが報じられている。一体この国はどこに向かっているのであろうか不安をもつ向きも多かろう。今年の2月千葉市で発生した10歳の少女の虐待死は多くの人々の涙を誘ったにちがいない。父親は、立派な仕事につき、与えられた仕事を淡々とこなし、大事件を起こすような人には見えなかったという。

ステイーブンスンの『ジキル博士とハイド氏』には、地位も名声もあり、なに不自由なく暮らしているジキル博士が、ハイド氏に変身して悪行に手を染める。ぶつかった少女の顔を踏みつけたり、殺人を犯すなど悪行に快感をおぼえるようになる。人間には善行ばかりではなく、こころのどこかに悪行をしたいという2面性を兼ね備えていることを指摘する。心愛ちゃんの父親も昼間は紳士の仮面をかぶり帰宅すると、ハイドと化し凄惨なリンチまがいの虐待を続けた。心愛ちゃんは、先生に虐待を受けていますどうにかなりませんかと訴えた。先生は守らなければならない約束を反故にし、教育委員会も児童相談所も機能しなかった。心愛ちゃんが信頼しきっていたはずの先生も周囲の大人たちも期待を裏切った。四面楚歌、大海に漕ぎ出した小舟のごとく不安は頂点に達していたに違いない。母親には『毎日が地獄』だと語ったらしい。大人と子供との境界線は、一体、どこにあるのであろうか、心の成熟した者が大人なのではないのか、知識、記憶 経験をもとに考え抜いた結果がこの体(てい)たらくなら、残念ながら心愛ちゃんのまわりには大人がいなかったということだ。まわりの大人たちもハイド氏に変身した者たちだったと言わざるを得ない。ジキル博士は、ハイド氏に変身する薬品を発明したが、この父親には、どんな薬品が準備されていたのか、知る由もないが、気がかりなこともある。今、われわれの住んでいる日本では、いわゆる『食品ロス』が、年間、６４６万トンにのぼるという。私たちが、多くの食材の命を奪っていることに思い寄せたことがあるであろうか。食肉が食卓にのぼるには誰かが、動物を解体しなければならない。屠殺場に向かう動物たちは、運命を悟ってか異様な声を発すると、かって、聞いたことがある。そんな光景を思い浮かべることなく、量が多いから、味付けが合わないなどの理由で簡単に捨てている。物事の本質も筋道も深く考えることもなく、原因と結果を短絡的に結び付けているように思えてならない。携帯電話も私たちを短絡的に、性急な解決に駆り立てているように思う。文明の利器の虜になるのではなくて、使い分ける器量が欲しい。こうした短絡的発想が、こころの天秤に載っている善行と悪行の振れに関わっているようにも思う。

慣例になっていた『いただきます』とは、食材の命をいただきます。『ごちそうさま』の馳走とは食材の準備に馬を走らせたことに由来し、『ご』は食事を準備してくれた人への敬意、感謝をこめて『ごちそうさま』と言うのだそうだ。食事の折に、気持ちをこめて『いただきます』と『ごちそうさま』と言ってみてはどうか。こころの天秤の振れが悪行に大きく傾くことを望む人は誰ひとりいないのだから。

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく
仁愛の精神をもって接し、
心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足：常に患者様の立場に立って行動します。
職員の満足：働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。
地域の満足：医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

介護医療院開設にあたって

介護医療院

副院長　深澤 嘉一

平成30年4月より創設された「介護医療院」は長期的に医療と介護のニーズを持つ高齢者を対象とし、「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と「生活施設」としての機能とを兼ね備えた施設です。（厚労省）

同仁病院は令和元年6月1日、今までの当院の介護病棟と変わりはない。
しかし時代は変わる。日本は年々高齢化し老人医療費が増大している。
高齢者に関係する福祉、介護、医療に関する法の一部は老人福祉法、介護保険法、医療法があり、昭和48年（46年前）老人福祉法改正の老人医療無料化で老人病院が増加し、社会的入院問題が発生し、又同じ病気で多数の病院を渡り歩き、外来は仲間の集会場所と化し診療の妨げとなっていた。

平成5年改正医療法で一般病院でも長期入院患者が増加したため、長期患者の入院施設として療養型病床を創設した。平成12年介護保険施行時に介護保険上、長期療養が必要な要介護者医学的管理、介護を行なう介護療養病床（医療施設）とした。

平成18年診療・介護報酬改定時に、医療療養と介護療養病床患者間に大差はなく、医療・介護保険の分担問題が出現し、患者の状態に応じ療養病床を再編成し、介護療養病床を平成23年末廃止（後29年末まで延期）し老健施設への転換を進めたが、進行しなかった。

介護療養病床の利用者は療養生活が長期で死亡退院患者4割と高率、且つ80才以上で医療必要な、介護度も高く、住まい機能を確保し且つ医療機能を内色した新しい型の施設が提供された。病床ではなく医療機関内の介護保険施設となる、即ち介護医療院の布石か。

平成28年社会保障審議会で介護医療院の名称で、介護保険法による生活施設として又医療法上の医療提供施設として、要介護高齢者の長期療養・生活施設とすることが決まった。

深澤Drの花畑に咲いたカサブランカ

平成29年6月2日法は公布され。介護医療院が創設された。介護医療院の基準が示されたが、当院では基準に従って対応完了して令和元年6月1日新制度でスタート、庄原同仁病院介護医療院。

1. 人員基準　2. 施設基準　プライバシーの保護のパーテーション新設等完了、3. 医師宿直　4. 看護24時間体制等全ての基準を完了した。介護医療院としては本来の介護と医療は完全に実施し、更に地域との交流を深めて、地域に開かれた透明性のある施設をめざす。

入所利用者の皆さんを中心にして、御家族の皆様、並びに地域の皆様、職員一同と心を合わせて新しい良い施設を作ろうではありませんか。

開設にあたり

事務長　西村 美智子

介護医療院

このたび、平成30年度より介護保険法のもとに新設された介護医療院を令和元年６月1日付けで開設いたしました。以前より設置しておりました介護療養型医療施設は令和6年3月末で設置期限を迎えることなり、引き続き、地域での当院の役割を果たす為、国の方針に従って転換いたしました。

当法人の役割は、これまでどおり、在宅での看護・介護が困難な方を受け入れてお世話することです。介護医療院は、今までの介護病棟が担っていた慢性期の医療機能、看取り・ターミナル機能とともに“生活の場”としての機能を併せ持つ介護施設です。生活の場となるために、この度プライバシー確保のためにパーテーションを設置いたしました。入所対象者は介護認定の「要介護１～５」の方で、主に「要介護４～５」の方が入所されています。

今までどおり、医療保険適用病床の「庄原同仁病院」６０床は継続し、当法人は「庄原同仁病院介護医療院」４０床と２つの事業所となりました。

これからも、地域の方々から選ばれる病院・施設を目指し、精進してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

私の体験記　　梅田 笑子（看護部）

こんにちは、４月からレクリエーション係として勤務させていただいています、梅田笑子です。同仁病院には、平成２７年８月まで勤務していましたが、股関節の手術のため退職いたしました。

手術日までの３ヶ月間、杖を使用している自分の姿を周囲の人はどう見ているのだろう、とても不安な気持ちから、人に合う事が嫌で外出を避ける様になりました。

術後、足を固定され動けない状態でベッド上の生活が続き、天井ばかり見て過ごしました。先生や看護師さんの「どうですか？大丈夫ですよ」と優しい声かけにとても心が癒されました。

動かない足のリハビリは痛みを伴い辛い毎日でした。

当初、歩き方を忘れており、一歩一歩前に動かせることに喜びを感じ、歩くことがこんなにも大変なことだったのかと、あらためて気づかされました。痒いところに手が届かないはがゆさ、何でも出来そうで出来ない、情けない思い・・・

患者様も、いつもこんな思いをされているのだろうと思っていました。

術前から辛かった入院生活を振り返ってみて、これからは暗い気持で生活するより、前向きに楽しく笑って過ごす事にしました。私の好きな言葉は「出会い」と「笑顔」です。

またここで多くのスタッフ、患者様と出会いました。そして、働けることの喜びを感じております。

私の入院体験から、まずは、自分が常に笑顔であり続ける事で皆様の笑顔を引き出すことが出来るようにお手伝いさせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

環境管理と栄養課とレク係の取組み

6月6日、レクリエーション室にて、患者様と一緒に梅ジュースを作りました。

昔、作っていたやり方を思い出しながら、患者様自ら率先して行って下さり、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。梅も同仁病院の敷地内で採れた梅、作り手も同仁病院の患者様とスタッフ、笑顔と愛情がたっぷり入った世界で一番美味しい「同仁病院梅ジュース」が出来上がるのを楽しみにしながら毎日を過ごしています。

はたして、どんな梅ジュースが出来上がるかな？

患者様たちの慣れた手つきで作業は順調にすすみました

もうすぐ“うめぇー　うめぇー　うめぇー”といいながら、梅ジュースで乾杯できそうです。

写真同好会撮影旅行　　iN　直島

直島のシンボル赤かぼちゃ

六月二十三日に岡山県と香川県の県境にある直島（香川県）に写真同好会の撮影旅行に行きました。同好会では年間4回位撮影旅行に出かけますが、今回はどちらかと言えば同好会の慰安旅行として島を訪れました。直島は瀬戸内海にある周囲16km、面積8km²の島です。人口は3,100人強。観光地である島の南半分を車で走るだけなら20分で廻れる規模の島です。岡山県の宇野港よりフェリーで20分の距離にあり、島内の観光には巡回バスを今回は利用しましたが、他にも自転車・車・徒歩いずれも移動可能です。島内は現代アートや建築家の建築作品が多数点在しています。又、美術館や海水浴場、多くの古民家カフェ・レストラン（和洋中）があり、飲食も楽しむことが出来ます。一日をのんびり過ごすもよし、レンタサイクル等で芸術作品を訪ねて走り回るもよし、色々な形で楽しめる島だと思いました。最初に記した様に今回の目的は慰安旅行なので、写真撮影はほどほどで院内に作品は展示されないかもしれませんが、会員達はまったりとした一日を島で過せました。

APRON CAFEの季節のスペシャルランチ

第36号 ながえの里だより（2019年夏号）令和1年7月10日発刊 医療法人ながえ会広報新聞委員会 庄原市川北町890-1 0824(72)7300

院内トピックス

血圧の計り方の実習を真剣にされていました

車椅子の基本操作を学びました

庄原中学校職場体験を終えて

例年のように今年も庄原中学校から2人の生徒の職場体験を受け入れました。2人とも将来、看護師・助産師になりたいという目標を明確にしていました。

医療人になりたいという強い目標をもった生徒さんに、まず色々な職種の現場を見て、それぞれに体験してもらいました。

高齢の患者様と直接ふれあうことで「最初は緊張したけど楽しかった」と素直な気持ちを話してくれました。

看護師の仕事をどのように伝えるかいつも迷う。優しい看護師さんという印象があるが、一人前の看護師になるまでの道のりは決して容易なものではない。前途多難だと思うが、その覚悟をもって看護の道へ進もうとする気持ちの後押しになればと、心から願っています。自分の足で歩き、自分の手で食事が出来る事がいかに幸せなことであるか、ささやかな日常が大きな幸せをもたらしていることを感じてほしい。

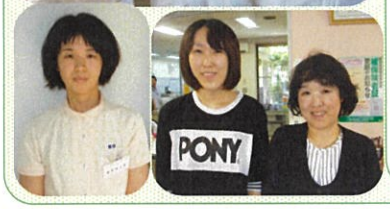
理学療法士実習を終えて

今回、島根県の学校から2か月間の臨床実習で勉強に来ています。実習では学校で学ぶことのできない患者さんへの対応、社会人としての姿勢、理学療法の思考過程を学ばせていただいています。現場に出ると自分のできないことが多く、自分が目指している職業がどれだけ大変なものか実感しています。様々な分野における理学療法士の役割について理解し、その一員として自覚をもって行動できるよう頑張っていきたいです。

山ちゃんの旅日記 ・山寺カフェ・ 山吉宏尚

6月13日に世羅町甲山にある今高野山に行って来ました。テレビを観ていると今高野山の参道に残る築百七十年の宿坊が再生されたお店が紹介されていました。お店の中に入っていちばん手前、窓際のカウンターのテーブルがこのお店の売りのひとつです。テーブル越しに写真を撮ると、水面に浮いたような木々の写真が撮れるのです。春は新緑、秋には紅葉の変わった写真が撮れると思います。お店の名前は「雪月風花・福智院」、お茶やスイーツが楽しめます。是非一度訪れてみて下さい。

フレッシュなスタッフが急増中！



中岡里美（看護部医療病棟）（写真左上より）

患者様が安心していただけるように頑張ります。よろしくお願いします。

森信智基（看護部医療病棟）

昨年11月より医療病棟にて勤務しています。笑顔を大切に、長年に渡り地域・病院に貢献していきたいです。よろしくお願いします

高橋映瑠奈（看護部医療病棟）

４月から勤務させて頂くことになりました。ブランクが大きく、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、早く仕事を覚えて戦力になれるよう頑張りたいと思います。

藤原麻友美（看護部介護病棟）

４月に入職しました、藤原麻友美です。よろしくお願いします。

世応朋美（栄養課）

世応です。おいしいご飯を作れるように頑張りたいです。よろしくお願いします。

片桐志麻（管理部）

４月からお世話になっています。初めての事も多く、ご迷惑をお掛けするかもしれませんが、一日でも早くご利用者やご家族の方々に寄り添える様頑張ります。

編集後記

先日の雨は、走り梅雨かと思う程、災暑が戻って来たりと近年の気候は昔と随分違ってきて季節感を感じることが少なくなった。そんな中、私の所属する課の休憩室の壁には愛らしい紫陽花が咲いている。色彩豊かな折り紙で作られた季節を運ぶ作品だ。作り手は先輩のＹさん、陽光の頃は艶やかな花と蝶、五月には鯉のぼりとその折り紙作品は四季の移り変わりを知らせてくれる。次は何かなと楽しみにしている私だ。諸先輩方の中には畑仕事や花造りを手掛けている方もいて、「次は○○が収穫できるね」「次は○○が咲くね」等の会話が私の心を豊かにしてくれる。作物や花を育てる事、折り紙作品。全てがその人の感性によるものと思う。私もせめて感性を大切にし、心を豊かにしたいと思う。　光木久爾子